

IT活用 高齢者見守り



ITを活用した見守り事業について、使用する機器を示しながら話す梅田智広さん

― 福原市四条町の県立医科大で

た。高齢者らの健康データを収集し、それを離れて暮らす家族らにスマートフォンのメッセージアプリ「ライン」で送ることなどを計画。同大発のベンチャー企業としては設立第1号になるという。

【藤原弘】

福原 県立医科大(福原市)が進めている医学を基礎とするまちづくり(MBT)に関連し、同大MBT研究所教授の梅田智広さん(44)が1日、情報技術(IT)を活用して高齢者の見守りなどを支援する新会社「MBTリンク」を設立し

県立医大研究教授が会社設立

化粧品メーカーなど多彩な業種の企業が集う「MBTコンソーシアム」で議論を深め、うち約10社のノウハウを結集した。

計画では、小型のネットワーク機器に通信機能やGPS(全地球測位システム)を組み込んだ新装置を利用。自宅で測定した血圧・体重▽Tシャツなどに付けられるセンサーで測った心拍▽環境センサーで収集した温度・気圧―などの各種データを、ラインや音声で遠隔地に伝えることができる。さらに医大の知見を生かし、研究所監修のコメントも伝えられる。

梅田さんは2006〜11年に東京大で特任助教を務め、企業関係者らの研究でセンサーの実用化や医学・健康への応用を考えていたという。15年4月に医大研究教授に就任。情報通信や気象会社、化

梅田さんは今後、企業や自治体などに利用を働き掛け、いく考えで、労働現場などでの従業員の熱中症予防や健康管理などに役立てる応用も考えている。さらに「事業を加速化させ、健康意識の高いマレーシアなど海外にも提供したい」と海外大学や企業との連携も視野に入れる。

MBTリンク社は医科大OBの協力で設立。社長は梅田さんで、事務所は県立医科大産学官インキュベーターセンター内に設置する。ホームページ(<http://mbtlink.co.jp>)も開設した。問い合わせは、梅田さん(080・8122・7317)。

健康データラインで家族に